

**カワムツ** (コイ科)

**学名** : *Nipponocypris temmincki*

**別名** : カワムツ B 型

**大きさ** : 全長 10 cm

**特徴** : オイカワと比較すると体幅に厚みがあり、吻端が丸く、ずんぐりしている。体側には濃紺色の比較的明瞭な縦帯がある。食性は雑食性で水生昆虫や付着藻類などを食べる。個体どうしでエサをめぐる争いがあり、頭を突き合うなどさまざまな攻撃パターンが知られる。産卵期は5~8月。雄は雌の後ろをついてまわる追尾行動を行う。砂泥底もしくは礫底のところに産卵する。

**国内の分布** : 本来の分布は富山県および静岡県以西の本州と四国、九州。琵琶湖産アユの種苗放流に伴って関東地方に分布域が拡大したとされる。

**県内の分布** : 茨城県は本来の分布域ではないが、霞ヶ浦の流入河川、久慈川、那珂川や県北地域の各河川に広く分布する。

**県内での生態** : 県内における分布域は徐々に拡大した傾向が見られる。例えば、1989~1992年に実施した久慈川以北の魚類相調査では久慈川支流の押川のみで確認され



写真 : ヌمامツ。腹鰭が赤みを帯びるのが特徴。

たが、2006~2010年に実施した同様の調査では、久慈川のほとんどの支流で確認され、久慈川以北の河川でも採集された。

久慈川の漁業者の話では、支流押川で生息数が多く、百も二百も釣れるという。箱メガネで岩の割れ目をのぞくと、隠れているカワムツを観察することができる。

**備考** : Hosoya et al. (2003) によって、従来カワムツ B 型と呼ばれていたものがカワムツ、カワムツ A 型と呼ばれていたものがヌمامツ (*Z. seiboldii*) と分類学的に整理された。さらに 2008 年にはミトコンドリア DNA を解析した研究結果に基づき属名が *Zacco* から変更されている。

**主な文献** :

Hosoya, K. et al. (2003) Ichthyol. Res., 50: 1-8.

Chen, I.S. et al. (2008) The Ruffle Bulletin of Zoology, Supplement, 19: 203-214.